

学校法人 三幸学園
東京ビューティーアート専門学校
学校自己評価報告書
(平成 27 年度)

平成 28 年 3 月 30 日提出

1. 学校の教育目標

【教育理念】

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容分野の学校として「人を美しくすることを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる、美奈をハッピーにする人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

【目指す人物育成像】

三幸学園は、生徒が社会に出た後のことまで見据えた教育こそ、本物の教育と考えている。「技能と心の調和」の教育理念を基に、目指す人材育成像を、「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」としている。これは専門知識や技能によって社会で活躍出来ると同時に、卒業後も自分を高め、持続的に成長していける前向きな人材を意味している。

【人材育成方針】

必要な能力とは・・・

- ・お客様を知る力→共感力、傾聴力、気付く力、観察力、
- ・伝える力→接客力、コミュニケーション力、プレゼン力、提案力
- ・自分の力→魅力、可愛さ、素直さ、明るさ、ポジティブ力、ストレス耐性、向上心、発想力、主体性、独創性、協調性、楽観性
- ・技術、トレンド力→探究心、観察力、情報収集能力
- ・チームワーク、行動力→巻き込む力、リーダーシップ、

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振り返り

本年度も教務の体系化プロジェクトとして、三幸学園の様々な教育を関連付け、体系化することで行事等の教育効果と役割を明確にした。成功体験や感動体験を繰り返せる教育の仕組みを作り出し、社会が必要とする能力を持った人材の指標となる『経験を積むことで身につく行動特性(=コンピテンシー)』を分析し、「対人基礎力」「対課題基礎力」「対自己基礎力」を身につけることができる教育を取り入れてきた。

《教務：体系化プロジェクト》

- ・スタートアッププログラムの内容強化
- ・夢のスケッチブックの充実化
(原田式メゾットの導入に伴い生徒が毎日、記入しやすい書式に変更、持続させる事により主体性や目標の理解、モチベーションアップへつなげるもの)
- ・成功の法則の強化
(原田式メゾットの導入後に中長期的な目標を達成する事で成功体験からのモチベーション維持)
- ・アクティブラーニングの導入(授業の効果を高める手法)
AL手法を取り入れたシラバスの作成
- ・あきらめない教育の浸透 (学園の教育特徴などや理念と実践の浸透を図る)
- ・退学率低減 (クラス会議の実施、担任指導者など)

②学校関係者評価委員会コメント

業界では専門店よりもメニューが豊富でトータル的な技術を提供するサロンが人気が高まり、技術を提供出来る人材が不足している。これまでは在学中により多くの技術をを学んだ人材を活かしきれていなかったが、これからは多様なニーズに応えられる人材が求められてくる。専門学校教育から現場へつなげていくためにより学校との連携を深めたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

在校生・保護者の専門学校での学びの特色、特徴や学校教育方針の理解・浸透の強化。
現場力・実践力・社会人基礎力向上を目的とした学内授業と現場実習の連携強化。

② 今後の改善方策

入学前に開催するスタートアッププログラムにて、生徒・保護者別教育理念・目指す人材育成像・方針への理解を促し、研修プログラムでは職業観を醸成し、明確な目標設定を行います。生徒も保護者も、そして教職員、全員の目につくような場所(校内)にポスター掲示や教職員向けのムービー映像を作成し視覚や聴覚からの浸透を図ります。また、在校生スタッフがサポートを行いその姿を通して1年後のイメージを膨らませ、目標を設定する。

施設実習のカリキュラムでは実施後に受け入れ企業と実習生それぞれにアンケートを実施し、学びの検証をすることで業界のニーズを把握し、人材育成に役立てます。

③ 特記事項

スタートアッププログラムの実施

実習アンケートの実施

保護者様へは行事の開催や就職・実習について定期的な保護者通信、成績表の送付を行う。

④ 学校関係者委員会コメント

特になし

(2) . 学校運営

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

教育活動の積極的な情報公開

② 今後の改善方策

業界・企業向けに教育の過程や成果に対する情報公開を積極的に行う。

③ 特記事項

学生管理システムによる生徒情報・成績管理を行っており、卒業生データも管理している。
人事・給与規定は就業規則として、雇用形態別に規定があり明確化されている。
学科ごとに教務主任、財務決済のための責任者を学校単位に配置している。
教務掲示板をWEB活用し保護者・在校生への情報伝達システム化されている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

情報共有ツールは社会に出てからも使用するため SNS 対策の指導を在学中から強化してほしい。

(3) . 教育活動

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

企業とのつながりを深め、産学連携の強化。

教員の育成・指導の体系化。

新任教員の教務力向上。自分も成長できるクラス運営を行う為に、担任には 1) 個に対応する対応力 2) 集団を求め力 3) チーム力のスキルが必要となる。

② 今後の改善方策

企業・業界団体との連携による実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討しマンネリ化を防ぎ活性化を促す。サロンワーク授業では企業とのコラボレーションによるインターンシップや学生サロンの開催により現場スキルを身につかせプログラムの充実を引き続き推進していく。

実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討することを基本方針とし、カリキュラム委員会では修正・改善を行う。教職員の教務研修やOJT指導者の配置など人材育成にも取り組んでいる。

③ 特記事項

サロンワーク授業を導入し実践的な授業の展開に力を入れている。

美容国家資格取得の為の学科でもコース選択の幅を広げ、任意で取得できる資格を増やし就先の幅を広げた。サロン・企業でのインターンシップを全ての学科で実施している。

まつ毛エクステンションの認定校とカリキュラムの充実を図っている。

教員業務スキルアップ研修の実施

教員リーダーシップ研修の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

インターンシップは企業・サロンにとっても社員の人材教育効果がある。インターンシップ後のフィードバックから課題を洗い出し、双方にとってより質の高い実習の実施を行うため連携をしていきたい。

(4) . 学修成果

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職率向上への取り組み。退学防止への取り組み。卒業生のサポートの充実。

業界・企業度との人材育成・キャリアアップシステムへの理解を深める

② 今後の改善方策

入学前にはスタートアッププログラムを行い、将来のビジョンを明確にし、目指す職業の社会的意義を伝える。後期コース選択後にもスタートアッププログラム、卒業生ガイダンス、企業ガイダンスを開催し職業意識を高めていくことを持続させ、退学率、就職率向上を図る。企業人事担当者との情報交換の充実により、職業ごとの求めるコンピテンシーを把握する。在校生の成長をデータとして集計するアンケートを実施しているが、その分析によって伸ばすべき能力を把握し指導に活かす。

③ 特記事項

担任指導者の設置、卒業生あての求人を HP で公開。

検定前には強化 WEEK の設定を行い、合格保証制度も設けている。

同窓会 Link で卒業生の紹介、講習会の実施を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

まつ毛エクステンションの技術に関しては指定カリキュラムを実施している学生が中途採用の施術者よりも技術がしっかりとしている。資格取得に対するカリキュラムがかなり充実していると感じた。卒業生のサポートについても同じだが、現場の離職率低下のために企業・サロンとの連携を深めたい。

(5) . 学生支援

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

就職指導は学科ごとに行っており、多様化する求人の対応には連携が必要。
健康管理は年に1度の健康診断や季節的な流行伝染病についての注意勧告

② 今後の改善方策

学科を超えて参加できる就職ガイダンスを開催し、学生の希望職種の教員が支援できる体制をつくる。遠方からの出身者で提携寮に入居している在校生に対しては、寮母さんとの連携によって生活環境への支援を行う。クラス会議を活用し、関わる多くの教員で情報共有・意見交換することで問題点を把握でき、指導に役立てる。そして、保護者との連携を重視する。生徒の問題を把握し、保護者に連絡し、早期に対応する。

③ 特記事項

今年度より保護者様閲覧用の教務掲示板を立ち上げ、行事の告知や、日常の情報を共有し連携した指導を行えるよう環境を整えた。
学費応援制度による奨学金と連携した学費サポートがある。
グループ校である飛鳥未来高等学校へは講師を派遣し授業を行っており、美容の職業教育を行っている。起業サポートとして、独立希望の卒業生が準備期間として働くことのできる面貸しの美容室を設置している。
卒業生 LINK の活用

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6) . 教育環境

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

職種によってインターンシップ期間が月単位を希望している企業もありますので、期間や時期を検討していく必要がある。インターンシップ受け入れ先の拡大・希望業種での施設実習ができないケースがある

実施予定であるインターンシップ制度を充実させるためには業界団体との連携により、優良サロンの選定や、企業の市場調査も行い現代のサロンがどのような設備のもと営業を行っているのかを知り学校側も整備する事も検討するべきだと感じます。

② 今後の改善方策

インターンシップ時期・期間の検討・企業サロン理解を深める
企業訪問・実習巡回の頻度を上げ、タイムリーな状況把握を行う

③ 特記事項

インターンシップカリキュラムの実施
実習先アンケートの実施
インドネシア政府公認のエステティック資格取得が可能なバリ研修の実施
ロサンゼルス研修の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7) . 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

新設校や少子化問題により募集定員の確保が最も重要項目として掲げたい内容だと思います。新

しいアイデアや卒業生の活躍、検定や国家資格の合格率など教育効果の実績を上げる事も必要。

- ② 今後の改善方策
教育成果として卒業生の活躍を打ち出す。
入学希望者の職場【模擬】体験を計画するなど、早い段階で職業理解に努める
- ③ 特記事項
体験入学・校内・会場ガイダンスの実施
各種イベントの実施
学納金は募集要項に明確に記載しており、基本的には追加の徴収はない。
教育訓練給付金制度の紹介
- ④ 学校関係者評価委員会コメント
特になし

(8) 財務

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

- ① 課題
社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。
- ② 今後の改善方策
 - ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
 - ・規模の増加に対応するための人材の育成
- ③ 特記事項
 - 中長期的な財務基盤の安定について
 - ・中期事業計画が策定され、当該計画はH25年度に前倒しで完了している。
 - ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。
 - 予算および収支計画の有効性、妥当性について
 - ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
 - ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
 - ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。
 - 会計監査について
 - ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検してい

る。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。

- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) . 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10) . 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

積極的は地域貢献活動の実施

② 今後の改善方策

今後もサロンワーク授業との連携したボランティア活動実施を継続していく。
WEBにて施設貸出や美容技術で地域貢献活動実施を告知していく。

③ 特記事項

ケアセンター・地域イベントからの依頼により、ハンドマッサージやネイルケア・メイク技術の提供などボランティア活動を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れ体制の整備

② 今後の改善方策

留学生の受け入れ・在学に対する職員理解を深める研修を実施。
留学生向け説明会の実施や担当者の設置。
日本語学校との提携を計る。

③ 特記事項

留学生への入試方法として学費の援助を目的とした特待生制度を設けている。
今年度は海外の美容学生を対象とした短期研修を開催。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育内容・育成目標は明確化されており、教職員が一丸となって取り組むしくみとして、教務を体系化している。今年度取り組んでいる様々なプロジェクトについては効果検証を行い、軌道修正しながら社会人基礎力の備わった人材の育成を目指す。教務の生徒保護者や地域・社会からの周知徹底、理解を深める為の施策を検討し、企業との更なる連携を強化する必要がある。